

投資型年金保険 メソッド™

ハートフォード生命保険株式会社の
変額個人年金保険Ⅱ型2003
〈20年運用コースB〉

特別勘定の月次運用レポート 2012年4月末現在



- 市場概況
- 特別勘定の運用状況
- 組入投資信託の運用レポート

変額個人年金保険の投資リスクと手数料について

●変額個人年金保険は一時払保険料をファンド(特別勘定)で運用します。ファンド(特別勘定)の主要投資対象である投資信託は、国内外の株式・債券等で運用しており、運用実績が保険金額や資産残高・将来の年金額等の増減につながるため、株価や債券価格の下落、為替の変動により、資産残高、解約払戻金額は払込保険料を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。

- 変額個人年金保険は預金等ではなく、預金保険制度ならびに投資者保護基金の対象ではありません。
 - 全部解約・一部解約(特別引出を除く)をした場合や年金受取開始日以降に年金を一括受取する場合等には、基本保険金額(一時払保険料相当額)の最低保証はありませんので、受取総額が基本保険金額(一時払保険料相当額)を下回ること(元本割れリスク)があります。
 - 保険関係費用:ご契約の新規成立・維持等や死亡・災害死亡の保障等をするための費用です。運用期間中、資産残高に対して年率2.37%の割合で毎日控除されます。
 - 運用関係費用:ファンド(特別勘定)の運用にかかわる費用です。主にファンド(特別勘定)が投資する投資信託の信託報酬で、信託財産に対して最大で年率1.291%(税抜1.23%)程度の割合で信託財産から毎日控除されます。お客さまにご負担いただく手数料には信託報酬の他、信託事務の諸費用、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等がかかります。これらは、取引量等により金額が変わるため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法、合計額等を記載することが困難であり表示することができません。また、これらの費用は基準価格に反映されるため、間接的にお客さまが負担することになります。運用手法の変更等の理由により将来変更される可能性があります。
 - 年金管理費:年金支払の管理にかかる費用です。年金の受取期間中、年金額に対して1%の割合で責任準備金から年金受取時に控除されます。
 - 解約控除:ご契約日および増額日からその日を含めて7年未満の全部解約・一部解約をした場合にかかります。ご契約日からの経過年数に応じて、解約控除対象額*の7%~1%の割合で解約日の資産残高または一部解約請求額から控除されます。
* 解約控除対象額は、全部解約の場合は基本保険金額(一時払保険料相当額)、一部解約の場合は一部解約請求額と基本保険金額(一時払保険料相当額)のうちいずれか小さい方の金額となります。なお、一部解約があった場合はその際の解約控除対象額が一時払保険料相当額から差し引かれます。
- ※この商品にかかる費用の合計額は、「運用期間中の費用(「保険関係費用」「運用関係費用)」と「年金受取期間中の費用(「年金管理費)」」の合計額となります。また、特定のお客さまには「解約控除」がかかります。

・当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

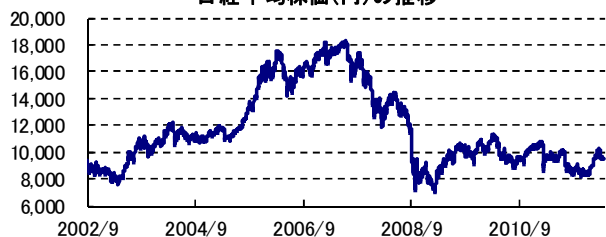
[引受保険会社] ハートフォード生命保険株式会社

本商品につきましては、新規のご契約のお取り扱いを行っておりません。
ただし、既に本商品をご契約されているお客様につきましては、ご契約後の各種手続のお取り扱いを行っております。

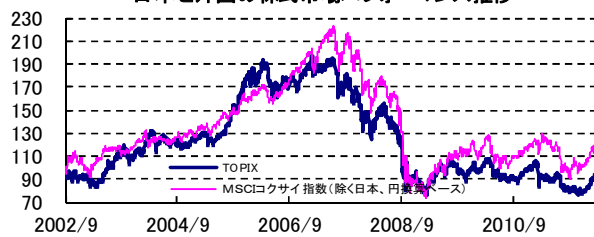
市場概況

代表的な指標の騰落率		1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年
日本株式	日経平均株価	▲ 5.58%	8.16%	5.92%	▲ 3.34%	7.85%
	TOPIX(東証株価指数)	▲ 5.86%	6.49%	5.26%	▲ 5.59%	▲ 4.00%
日本債券	NOMURA-BPI	0.52%	0.69%	1.49%	3.07%	7.64%
外国株式	MSCIコクサイ指数(除く日本、円換算ベース)	▲ 1.80%	11.29%	8.23%	▲ 6.98%	24.00%
外国債券	シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)	▲ 1.27%	6.95%	7.09%	1.16%	▲ 2.68%
外国為替	米ドル対円為替レート(仲値)	▲ 1.22%	6.30%	4.42%	▲ 1.08%	▲ 16.97%

日経平均株価(円)の推移

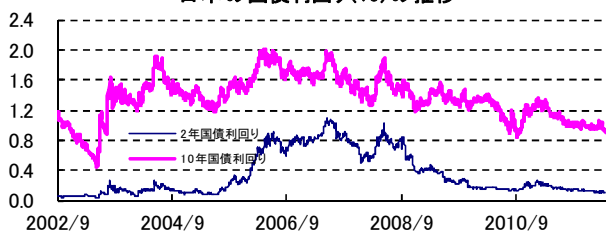


日本と外国の株式市場パフォーマンス推移

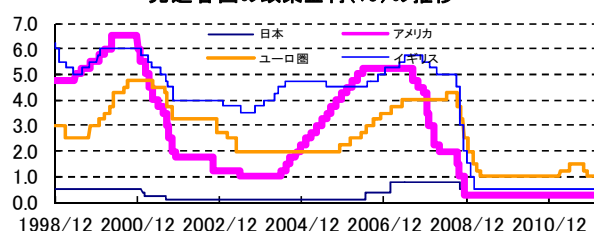


* 上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

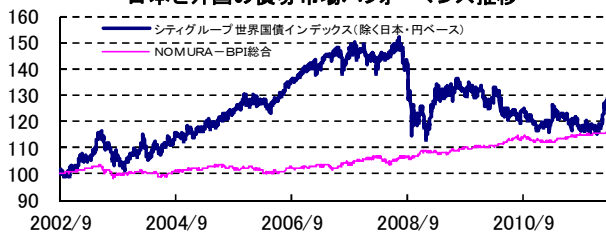
日本の国債利回り(%)の推移



先進各国の政策金利(%)の推移

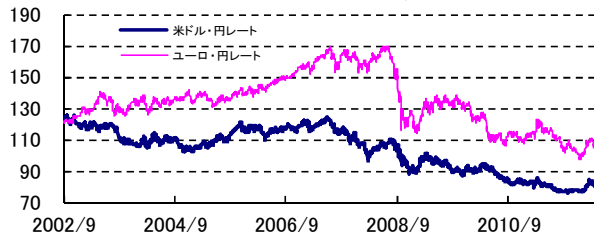


日本と外国の債券市場パフォーマンス推移



* 上記グラフは、2002年9月末を100として指数化しています。

外国為替レート(円)の推移



全てのデータの出所はBloomberg、野村総合研究所です。NOMURA-BPIとは、日本国内債券市場で発行されている代表的な公社債の流通動向を的確に表す投資収益指数です。当指数は、野村証券株式会社によって計算、公表されている、野村証券株式会社の知的財産です。MSCIコクサイ指数とは、MSCI Inc.が所有する株価指数で、世界の主要先進国の株式市場の動きを捉える基準として、広く認知されているものです。シティグループ世界国債インデックスとは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクが開発した債券指数で、世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均し、指数化したものです。

【日本株式市場】

4月の日経平均株価は、日本経済の先行きへの楽観的な見方が後退したことなどから、前半は大きく下落しました。その後も欧州債務問題への不安が広がったことによる投資家のリスク回避姿勢が強まったことを背景に下落基調が続き、前月末より563円安の9,520円で取引を終了しました。

【日本債券市場】

新発10年国債利回りは、序盤こそ上昇する局面も見られましたが、依然として欧州債務問題への不安が拭えていないことや市場が日銀による更なる金融緩和を期待していたことなどから、低下基調が続き、前月末比低下の0.8%台後半で月末をむかえました。

【外国株式市場】

NYダウは、雇用統計の結果などを受け軟調に推移しましたが、好調な企業業績に支えられ月末にかけて持ち直す動きがあり、前月末とほぼ同じ13,213ドルで取引を終了しました。独株式市場は、スペインを含む欧州各国の債務問題の再燃があり、前月末を下回り取引を終了しました。

【外国債券市場】

米10年国債利回りは、欧州債務問題だけではなく世界景気にも先行き不透明感が高まったことで月を通じて低下基調が続き、前月末を下回り月末をむかえました。独10年国債利回りは、欧州内での資金逃避先として選好される動きが強まり、前月末を下回り月末をむかえました。

【外国為替市場】

米ドルは、米国経済の先行きに対する楽観的な見方が後退したことなどから、円高基調が続き、前月末比円高の1ドル=81円台前半で月末をむかえました。ユーロは、欧州債務問題への不安感などから売られる動きが続き、前月末比円高の1ユーロ=107円台前半で月末をむかえました。

・当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
 ・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
 ・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。
 したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定(ファンド)グループ

特別勘定と主な投資対象の投資信託

特別勘定	運用資産				主な投資対象の投資信託	運用会社	資産配分(%)		資産合計 (百万円)
	株式		債券				投資信託	現預金 その他	
	日本	外国	日本	外国					
バランス20 TM	●	●	●	●	三菱UFJ MV20VA *	三菱UFJ投信株式会社	97.5%	2.5%	2,468
バランス40 TM	●	●	●	●	三菱UFJ MV40VA *	三菱UFJ投信株式会社	97.5%	2.5%	5,506
バランス80 TM	●	●	●	●	三菱UFJ MV80VA *	三菱UFJ投信株式会社	97.5%	2.5%	3,352
マネー MA			●		三菱 MRF (マネー・リザーブ・ファンド)	三菱UFJ投信株式会社	95.0%	5.0%	1,020

* 適格機関投資家限定で設定される投資信託です。

投資信託の運用方針

主な投資対象の投資信託	運用方針																														
三菱UFJ MV20VA *	<p>主に日本を含む世界各国の株式・公社債および円短期金融商品に分散投資し、中長期的に合成ベンチマークを上回る投資成果の獲得を目指します。</p> <p><合成ベンチマーク></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資産区分</th> <th>日本株式</th> <th>外国株式</th> <th>日本債券・ 短期金融資産</th> <th>外国債券 (為替ヘッジあり)</th> <th>外国債券 (為替ヘッジなし)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指数</td> <td>配当込みTOPIX</td> <td>MSCIコクサイ インデックス (除く日本、円換算 ベース配当込み)</td> <td>NOMURA-BPI 総合指数 (短期金融資産(有担 保コール翌日物)1% を含む)</td> <td>シティグループ 世界国債インデックス (除く日本、円ヘッジ・ 円ベース)</td> <td>シティグループ 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)</td> </tr> <tr> <td>三菱UFJ MV20VA</td> <td>15%</td> <td>5%</td> <td>40%</td> <td>35%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>三菱UFJ MV40VA</td> <td>30%</td> <td>10%</td> <td>30%</td> <td>25%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>三菱UFJ MV80VA</td> <td>55%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>5%</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	資産区分	日本株式	外国株式	日本債券・ 短期金融資産	外国債券 (為替ヘッジあり)	外国債券 (為替ヘッジなし)	指数	配当込みTOPIX	MSCIコクサイ インデックス (除く日本、円換算 ベース配当込み)	NOMURA-BPI 総合指数 (短期金融資産(有担 保コール翌日物)1% を含む)	シティグループ 世界国債インデックス (除く日本、円ヘッジ・ 円ベース)	シティグループ 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	三菱UFJ MV20VA	15%	5%	40%	35%	5%	三菱UFJ MV40VA	30%	10%	30%	25%	5%	三菱UFJ MV80VA	55%	25%	10%	5%	5%
資産区分		日本株式	外国株式	日本債券・ 短期金融資産	外国債券 (為替ヘッジあり)	外国債券 (為替ヘッジなし)																									
指数		配当込みTOPIX	MSCIコクサイ インデックス (除く日本、円換算 ベース配当込み)	NOMURA-BPI 総合指数 (短期金融資産(有担 保コール翌日物)1% を含む)	シティグループ 世界国債インデックス (除く日本、円ヘッジ・ 円ベース)	シティグループ 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)																									
三菱UFJ MV20VA		15%	5%	40%	35%	5%																									
三菱UFJ MV40VA	30%	10%	30%	25%	5%																										
三菱UFJ MV80VA	55%	25%	10%	5%	5%																										
三菱UFJ MV40VA *																															
三菱UFJ MV80VA *																															
三菱 MRF (マネー・リザーブ・ファンド)	主に信用度が高く残存期間の短い日本国内外の公社債、CP等の短期金融商品に投資することによって、安定した収益の確保を目指します。																														

* 適格機関投資家限定で設定される投資信託です。

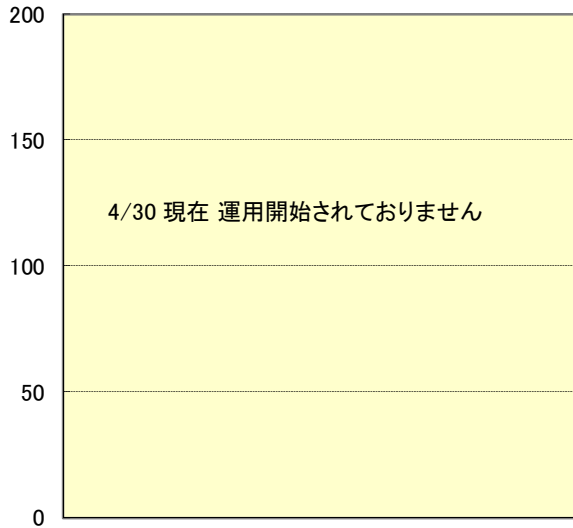
当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

特別勘定 ユニットプライスと収益率の推移

バランス20 TM



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	—	—	—	—	—	—

バランス40 TM



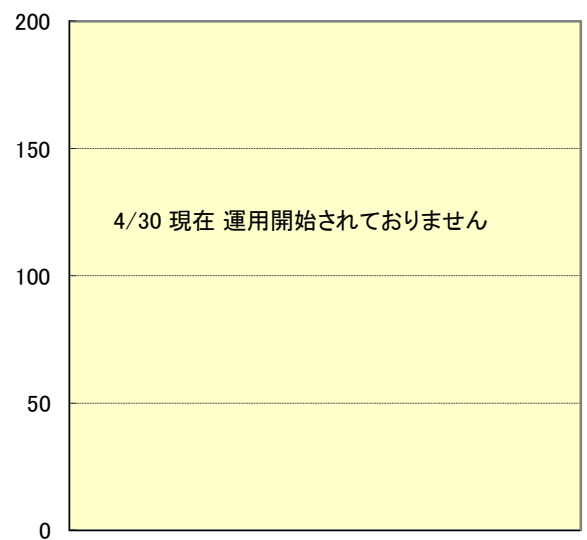
期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	-1.85%	3.58%	2.97%	-0.25%	6.61%	-10.79%

バランス80 TM



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	-3.85%	7.02%	4.66%	-4.19%	6.64%	-19.13%

マネー MA



期間収益率	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
	—	—	—	—	—	—

※特別勘定のユニットプライスは当初100で設定されております。

- 当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
- 特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
- 各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

バランス20/40/80 TM

【特別勘定が投資する投資信託】

三菱UFJ MV20VA / 三菱UFJ MV40VA / 三菱UFJ MV80VA
(適格機関投資家限定)

【運用会社】

三菱UFJ投信株式会社
ラッセル・インベストメント株式会社

主要投資対象

日本を含む世界各国の株式及び公社債(これを主要投資対象とするマザーファンド受益証券を含みます。)を主要投資対象とする証券投資信託の受益権または受益証券(以下、「投資信託証券」といいます。)。主にラッセル 日本株式マザーファンド、ラッセル 外国株式マザーファンド、ラッセル 日本債券マザーファンド、ラッセル 外国債券マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

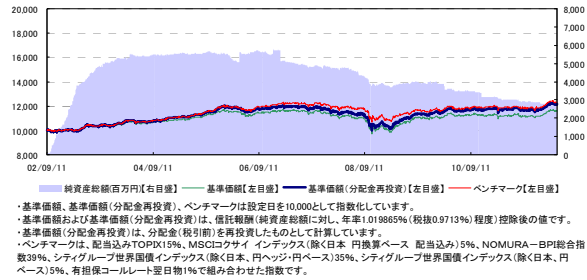
運用方針

主に日本を含む世界各国の株式・公社債および円短期金融商品に分散投資し、中長期的に合成ベンチマークを上回る投資成果の獲得をめざします。

三菱UFJ MV20VA・三菱UFJ MV40VA・三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)は、2002年9月11日に設定され(信託期間:無期限)、日本を含む世界各国の株式および公社債(これを主要投資対象とするマザーファンド受益証券を含みます。)を主要投資対象とする投資信託証券に投資し、リスクの軽減に努めつつ中長期的に着実な成長をめざす追加型証券投資信託(ファンド・オブ・ファンズ)です。

三菱UFJ MV20VA(適格機関投資家限定)

◆基準価額の推移



◆騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-0.64%	2.59%	3.47%	3.92%	14.40%	21.64%
ベンチマーク	-0.63%	2.57%	3.54%	3.91%	10.48%	23.25%

・ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りは異なります。
・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。

◆実質組入比率

	比率
日本株式	14.79%
日本債券	38.94%
外国株式	5.13%
外国債券(為替ヘッジあり)	35.00%
外国債券(為替ヘッジなし)	5.04%
短期金融資産	1.10%

・比率は純資産総額に対する各投資対象ファンドの割合です。

◆ファンド現況

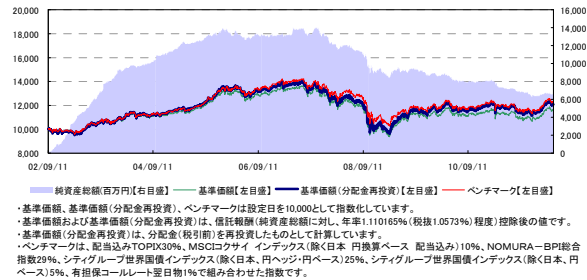
	2012/4/27	前月末	前月末比
基準価額	11,621円	11,696円	-75円
純資産総額(百万円)	2,844	2,826	+18

◆分配金実績(税引前)

決算日	直近前	2期前	3期前	4期前	5期前	6期前	設定来累計
分配金	0円	100円	100円	0円	0円	0円	500円

三菱UFJ MV40VA(適格機関投資家限定)

◆基準価額の推移



◆騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-1.71%	4.28%	4.29%	2.20%	14.80%	21.01%
ベンチマーク	-1.64%	4.33%	4.59%	2.55%	11.60%	23.11%

・ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りは異なります。
・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。

◆実質組入比率

	比率
日本株式	29.43%
日本債券	28.92%
外国株式	10.15%
外国債券(為替ヘッジあり)	25.00%
外国債券(為替ヘッジなし)	5.03%
短期金融資産	1.47%

・比率は純資産総額に対する各投資対象ファンドの割合です。

◆ファンド現況

	2012/4/27	前月末	前月末比
基準価額	11,580円	11,782円	-202円
純資産総額(百万円)	6,542	6,701	-159

◆分配金実績(税引前)

決算日	直近前	2期前	3期前	4期前	5期前	6期前	設定来累計
分配金	0円	100円	100円	0円	0円	0円	500円

三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)

◆基準価額の推移



◆騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	-3.70%	7.93%	6.13%	-1.80%	15.44%	16.02%
ベンチマーク	-3.45%	7.97%	6.61%	-0.70%	13.58%	19.46%

・ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りは異なります。
・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。

◆実質組入比率

	比率
日本株式	54.84%
日本債券	8.94%
外国株式	25.58%
外国債券(為替ヘッジあり)	5.07%
外国債券(為替ヘッジなし)	5.01%
短期金融資産	0.56%

・比率は純資産総額に対する各投資対象ファンドの割合です。

◆ファンド現況

	2012/4/27	前月末	前月末比
基準価額	11,161円	11,590円	-429円
純資産総額(百万円)	4,001	4,273	-273

◆分配金実績(税引前)

決算日	直近前	2期前	3期前	4期前	5期前	6期前	設定来累計
分配金	0円	0円	100円	0円	0円	100円	500円

・配当込みTOPIXとは、東京証券取引所第一部に上場する国内株銘柄を対象として算出した指数(TOPIX)に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。配当込みTOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、配当込みTOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、配当込みTOPIXの算出もしくは公表の停止または配当込みTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

・MSCIコクサイ インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要国で構成されています。MSCIコクサイ インデックス(除く日本 円換算ベース 配当込み)は、MSCIコクサイ インデックス(除く日本 米ドルベース 配当込み)をもとに、三菱UFJ投信株式会社が計算したものです。また、MSCIコクサイ インデックスはMSCI Inc.の財産であり、「MSCI」はMSCI Inc.のサービスマークです。

・NOMURA-BPI総合指数とは、野村証券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、国債の他、地方債、政府保証債、金融債、事業債および円建外債等が構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI総合指数は野村証券株式会社の知的財産であり、各ファンドの運用成果に関し、野村証券株式会社は一切関係ありません。

・シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)とは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合投資利回りを各市場の時価総額で加重平均し指数化した債券インデックスです。

(注)各合成ベンチマークの計算にあたっては、三菱UFJ投信株式会社において、ファンドにおける組入資産・為替の評価時点にあわせて計算を行います。

当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

バランス20／40／80 TM

【特別勘定が投資する投資信託】

三菱UFJ MV20VA / 三菱UFJ MV40VA / 三菱UFJ MV80VA
(適格機関投資家限定)

【運用会社】

三菱UFJ投信株式会社
ラッセル・インベストメント株式会社

主要投資対象

日本を含む世界各国の株式及び公社債(これを主要投資対象とするマザーファンド受益証券を含みます。)を主要投資対象とする証券投資信託の受益権または受益証券(以下、「投資信託証券」といいます。)。主にラッセル 日本株式マザーファンド、ラッセル 外国株式マザーファンド、ラッセル 日本債券マザーファンド、ラッセル 外国債券マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運用方針

主に日本を含む世界各国の株式・公社債および円短期金融商品に分散投資し、中長期的に合成ベンチマークを上回る投資成果の獲得をめざします。

【4月の市況概況】

三菱UFJ MV20VA・三菱UFJ MV40VA・三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)の主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。

4月の海外株式相場は軟調な展開となりました。米国では、良好な企業決算が相次いだ

ものの、雇用や設備投資等の経済指標が市場予想を下回り、景気の先行き不透明感が強まりました。ユーロ圏では、スペイン国債の低調な入札結果を受けて欧州の債務問題に対する懸念が再燃しました。こうした中、海外株式相場は、欧州の債務問題に対する懸念の再燃や軟調な米経済指標等を受けて下落基調となりました。その後、月末にかけて、米企業の好調な決算発表等を受けて上昇に転じましたが、最終的に前月末をやや下回る水準で終わりました。

国内株式相場も下落しました。国内では、足下の景気は横ばいながら、輸出や雇用、消費等の経済指標で改善の兆しが見られました。こうした中、国内株式相場は、米雇用統計が市場予想を下回ったことや欧州の債務問題に対する懸念が再燃したことに加え、円高進行も相場の重石となり、下落基調で推移しました。月末には、日銀が追加金融緩和の実施を決定したものの、相場を押し上げるには至らず、最終的に前月末を下回る水準で終わりました。

海外債券相場はやや強含みの展開(債券利回りは低下)となりました。前月末に2.2%台前半であった米国10年物国債利回りは、3月のFOMC(米連邦公開市場委員会)議事録公表を受けて追加金融緩和への期待が後退したことから上昇して始まりました。しかし、その後は、米雇用統計が市場予想を下回ったことや欧州の債務問題に対する懸念の再燃等を背景に低下基調となり、最終的に1.9%台前半で月を終えました。前月末に1.7%台後半であったドイツ10年物国債利回りも、欧州の債務問題に対する懸念の再燃等を背景にリスク回避の動きが高まったことから低下基調となり、最終的に1.6%台後半で月を終えました。

国内債券相場は上昇しました。前月末に0.9%台後半であった10年物国債利回りは、月初は、米国での追加金融緩和への期待が後退したこと等を背景に上昇して始まりました。しかし、その後は、欧州の債務問題に対する懸念の再燃等を受けて低下基調となりました。

月末には、日銀による追加金融緩和の実施も金利低下要因となり、最終的に0.8%台後半で月を終えました。為替市場では、ドル/円相場は3.0%の円高、ユーロ/円相場は3.6%の円高となりました。

ラッセル・インベストメント グループ

ラッセル・インベストメント グループは、年金、金融機関および個人投資家など様々な投資家の皆様を対象に、グローバルに総合的な資産運用ソリューションを提供しています。

グローバルに行う運用会社調査をもとに、資産運用、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービス、資産運用コンサルティング、売買執行管理、株式インデックスの開発など幅広く業務を行っており、現在当グループが提供するファンドの運用資産総額は約13兆円※となっています。

(※ 2012年3月末現在、為替換算レート：82.29円/ドル)

ラッセル・インベストメント株式会社

これまでラッセル・インベストメント グループが世界で提供してきた“マルチ・マネー・ジャー・ファンド”を日本で初めて設定・運用管理し、日本の投資家の皆様にご提供致しております。

当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。
特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。
各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

バランス20／40／80 TM

【特別勘定が投資する投資信託】

三菱UFJ MV20VA / 三菱UFJ MV40VA / 三菱UFJ MV80VA
(適格機関投資家限定)

【運用会社】

三菱UFJ投信株式会社
ラッセル・インベストメント株式会社

主要投資対象

日本を含む世界各国の株式及び公社債(これを主要投資対象とするマザーファンド受益証券を含みます。)を主要投資対象とする証券投資信託の受益権または受益証券(以下、「投資信託証券」といいます。)。主にラッセル 日本株式マザーファンド、ラッセル 外国株式マザーファンド、ラッセル 日本債券マザーファンド、ラッセル 外国債券マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運用方針

主に日本を含む世界各国の株式・公社債および円短期金融商品に分散投資し、中長期的に合成ベンチマークを上回る投資成果の獲得をめざします。

【各投資信託証券の運用経過および運用状況】

三菱UFJ MV20VA・三菱UFJ MV40VA・三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)の主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。

ラッセル 日本株式ファンドⅡ (適格機関投資家限定)

1.運用成果

設定日 2000年12月21日

(2012年4月末)

ファンド・ベンチマーク騰落率			
	設定来	過去1年間	期初来
ファンド	-19.7%	-4.9%	7.3%
ベンチマーク	-24.2%	-3.4%	9.0%
過去6か月			
	過去6か月	過去3か月	過去1か月
ファンド	5.0%	6.6%	-6.0%
ベンチマーク	6.5%	7.7%	-5.9%
組入銘柄数		392 銘柄	

株式保有上位10銘柄

(2012年4月末)

銘柄	業種	組入比率※1
三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.8%
トヨタ自動車	輸送用機器	3.0%
三菱商事	卸売業	2.3%
三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.3%
日本電信電話	情報・通信業	2.2%
三井物産	卸売業	2.0%
エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	2.0%
日産自動車	輸送用機器	1.9%
オリックス	その他金融業	1.6%
日立製作所	電気機器	1.4%

※1 組入比率は株式評価額合計に対する割合(投資信託除く)

3.運用状況

4月の国内株式相場は下落しました(TOPIX(配当込み)は前月末比5.9%下落)。こうした中、ラッセル 日本株式ファンドⅡの基準価額は前月末比6.0%下落しました。国内株式相場は、米雇用統計が市場予想を下回ったことや欧州の債務問題に対する懸念が再燃したことに加え、円高進行を受けて企業業績の悪化懸念が高まったことも相場を重石となり、下落基調で推移しました。月末には、日銀が追加金融緩和の実施を決定したものの、相場を押し上げるには至らず、最終的に前月末を下回る水準で終えました。スタイル別では、Russell/Nomuraグロース指数は4.2%の下落、同バリュース指数は7.4%の下落となり、グロース優位の展開となりました。

2.ファンドの内容

上位10業種の配分

組入比率の比較とベンチマーク収益率 (2012年4月末)

業種	ファンド※1	ベンチマーク	ベンチマーク収益率
電気機器	11.7%	13.6%	-7.6%
銀行業	11.4%	9.5%	-6.9%
輸送用機器	9.7%	10.7%	-6.5%
卸売業	9.1%	5.6%	-5.3%
情報・通信業	7.7%	6.3%	-2.8%
化学	6.8%	6.0%	-3.8%
小売業	5.4%	4.3%	-2.7%
機械	4.5%	5.2%	-4.7%
陸運業	2.9%	3.9%	-4.0%
その他金融業	2.9%	0.8%	-2.0%

ベンチマーク: TOPIX(配当込み)

TOPIXは、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、株価指数の算出、公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの商標に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。また、これらの情報は信頼のおける情報源から得たものではありませんが、株式会社東京証券取引所はその確実性および完結性に責任を負うものではありません。

外部委託運用会社

運用会社

三井住友信託銀行(注)

ゼブラ・キャピタル・マネジメント

アライアンス・パートナーズ

ラッセル・インプリメンテーション・サービス

ファンネクス・アセット・マネジメント

※2 キャッシュ・エクワイゼーション(流動資産の株式化)部分を除きます。

(注)住友信託銀行は、2012年4月1日付で中央三井信託銀行および中央三井アセット信託銀行と合併し、三井住友信託銀行に商号変更しました。

運用スタイル

グロース型

バリュース型

バリュース型

バリュース型

マーケット・オリエンテッド型

マーケット・オリエンテッド型

目標配分割合※2

25%

20%

20%

10%

25%

ラッセル 外国株式ファンドⅡ (適格機関投資家限定)

1.運用成果

設定日 2000年12月21日

(2012年4月末)

ファンド・ベンチマーク騰落率			
	設定来	過去1年間	期初来
ファンド	-0.5%	-5.3%	16.7%
ベンチマーク	5.8%	-5.7%	15.5%
過去6か月			
	過去6か月	過去3か月	過去1か月
ファンド	11.5%	14.2%	-2.2%
ベンチマーク	10.9%	10.4%	-3.8%
組入銘柄数		346 銘柄	

株式保有上位10銘柄

(2012年4月末)

銘柄	通貨	組入比率※1
APPLE INC	USD	2.7%
NESTLE SA-REG	CHF	1.9%
DIAGEO PLC	GBP	1.5%
INTEL CORP	USD	1.4%
VISA INC-CLASS A SHARES	USD	1.4%
GIE FINANCIERE RICHEMON-BR A	CHF	1.3%
WELLS FARGO & CO	USD	1.2%
ACCENTURE PLC-CL A	USD	1.1%
AKZO NOBEL	EUR	1.1%
SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD	KRW	1.0%

※1 組入比率は株式評価額合計に対する割合(投資信託除く)

3.運用状況

4月の海外株式相場は軟調な展開となりました(MSCI KOKUSAI(配当込み)は前月末比3.8%下落)。こうした中、ラッセル 外国株式ファンドⅡの基準価額は前月末比2.2%下落しました。米国株式相場は、欧州の債務問題に対する懸念の再燃や軟調な米経済指標等を受けて下落基調となりました。その後、月末にかけて、米企業の好調な決算発表等を受けて上昇に転じましたが、最終的に前月末をやや下回る水準で終えました。欧州株式相場も、欧州の債務問題に対する懸念が再燃したことに加え、5月のフランス大統領選やギリシャ総選挙等を控え、緊縮財政継続等の政局面への懸念も高まったこと等を背景に下落基調となり、前月末を下回る水準で終えました。為替市場では、対米ドル、対ユーロともに円高となりました。

2.ファンドの内容

地域別配分

組入比率の比較とベンチマーク収益率 (2012年4月末)

地域	ファンド※2	ベンチマーク	ベンチマーク収益率
北米地域	58.5%	64.1%	-3.5%
ユーロ地域	18.9%	12.4%	-8.3%
ユーロ除く欧州	18.5%	16.9%	-2.5%
その他	4.0%	6.6%	-1.5%

※2 組入比率は株式及び先物等の評価額合計に対する割合(投資信託含む)

ベンチマーク: MSCI KOKUSAI(配当込み)

MSCI KOKUSAIインデックスに関する著作権およびその他の財産権はすべてMSCI Inc.に帰属しており、その許諾なしにコピーを含め電子的、機械的の一切の手段その他、あらゆる形態を用い、インデックスの全部または一部を複製、配付、使用することは禁じられています。またこれらの情報は信頼のおける情報源から得たものでありますが、その確実性および完結性をMSCI Inc.は如何に保証するものではありません。

外部委託運用会社

運用会社

マツキリー・キャピタル・マネジメント

マージョ・キャピタル・マネジメント

ハリス・アソシエイツ

エムエス・インスティテューショナル・アドバイザーズ

アローストリート・キャピタル

※3 キャッシュ・エクワイゼーション(流動資産の株式化)部分を除きます。

運用スタイル

グロース型

グロース型

バリュース型

マーケット・オリエンテッド型

マーケット・オリエンテッド型

目標配分割合※3

15%

15%

15%

30%

25%

当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】

バランス20／40／80 TM

【特別勘定が投資する投資信託】

三菱UFJ MV20VA / 三菱UFJ MV40VA / 三菱UFJ MV80VA
(適格機関投資家限定)

【運用会社】

三菱UFJ投信株式会社
ラッセル・インベストメント株式会社

主要投資対象

日本を含む世界各国の株式及び公社債(これを主要投資対象とするマザーファンド受益証券を含みます。)を主要投資対象とする証券投資信託の受益権または受益証券(以下、「投資信託証券」といいます。)。主にラッセル 日本株式マザーファンド、ラッセル 外国株式マザーファンド、ラッセル 日本債券マザーファンド、ラッセル 外国債券マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運用方針

主に日本を含む世界各国の株式・公社債および円短期金融商品に分散投資し、中長期的に合成ベンチマークを上回る投資成果の獲得をめざします。

【各投資信託証券の運用経過および運用状況】

三菱UFJ MV20VA・三菱UFJ MV40VA・三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)の主要投資対象である投資信託証券を運用しているラッセル・インベストメント株式会社からのデータ・コメントを原則としてそのまま掲載しています。

ラッセル 日本債券ファンドⅢ(適格機関投資家限定)

1.運用成果

設定日 2002年9月12日

(2012年4月末)

ファンド・ベンチマーク騰落率			
	設定来	過去1年間	期初来
ファンド	12.6%	3.0%	0.9%
ベンチマーク	15.7%	3.1%	1.1%
過去6か月			
	過去6か月	過去3か月	過去1か月
ファンド	1.3%	0.6%	0.5%
ベンチマーク	1.5%	0.7%	0.5%

ベンチマーク: NOMURA-BPI総合指数

NOMURA-BPI総合指数は、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付債券の市場全体の動向を表す投資収益指数です。NOMURA-BPIは、野村證券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、野村證券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

3.運用状況

4月の国内債券相場は上昇(債券利回りは低下)しました(NOMURA-BPI総合指数は前月末比0.5%上昇)。こうした中、ラッセル 日本債券ファンドⅢの基準価額は前月末比0.5%上昇しました。国内債券相場は、月初は、3月のFOMC(米連邦公開市場委員会)の議事録公表を受けて米国での追加金融緩和への期待が後退したこと等を背景に下落して始まりまし。しかし、その後は、欧州の債務問題に対する懸念の再燃や軟調な米経済指標等を受けて投資家のリスク回避傾向が高まり、上昇基調に転じました。月末には、日銀が追加金融緩和の実施を決定したことも上昇材料となり、最終的に前月末を上回る水準で終えました。

ラッセル 外国債券ファンドⅢ(適格機関投資家限定)

Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし)

1.運用成果

Aコース

設定日 2002年9月12日

(2012年4月末)

ファンド・ベンチマーク騰落率			
	設定来	過去1年間	期初来
ファンド	32.4%	9.3%	3.7%
ベンチマーク	26.8%	7.7%	2.2%
過去6か月			
	過去6か月	過去3か月	過去1か月
ファンド	4.1%	0.6%	0.6%
ベンチマーク	2.8%	0.3%	0.6%

Bコース

設定日 2002年9月12日

(2012年4月末)

ファンド・ベンチマーク騰落率			
	設定来	過去1年間	期初来
ファンド	36.0%	3.1%	8.8%
ベンチマーク	28.8%	1.0%	5.9%
過去6か月			
	過去6か月	過去3か月	過去1か月
ファンド	6.0%	7.7%	-0.9%
ベンチマーク	3.3%	5.9%	-2.5%

3.運用状況

4月の海外債券相場はやや強含みの展開(債券利回りは低下)となりました(シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は円高のため前月末比2.5%下落)。こうした中、ラッセル 外国債券ファンドⅢの基準価額はAコースで前月末比0.6%の上昇、Bコースで0.9%の下落となりました。米国債券相場は、雇用統計が市場予想を下回ったことや欧州の債務問題に対する懸念の再燃等を背景に上昇し、前月末を上回る水準で終えました。欧州債券相場においては、ドイツ国債が欧州の債務問題に対する懸念の再燃等を背景にリスク回避傾向が高まり上昇しましたが、スペインやイタリア等の国債は下落し、欧州全体では前月末を下回る水準で終えました。為替市場では、対米ドル、対ユーロともに円高となりました。

2.ファンドの内容

種別配分

組入比率の比較とベンチマーク収益率 (2012年4月末)

種別	組入比率の比較とベンチマーク収益率 (2012年4月末)	
	ファンド※1	ベンチマーク
国債	77.3%	76.7%
地方債	0.0%	7.3%
政保債	0.0%	4.2%
金融債	0.0%	1.3%
事業債	19.3%	8.2%
円建外債	0.0%	0.7%
MBS / ABS	0.0%	1.5%
その他	3.4%	--

※1 組入比率は債券及び投資信託の評価額合計に対する割合

外部委託運用会社

運用会社

りそな銀行

DIAMアセットマネジメント

運用スタイル

広範囲型

広範囲型

目標配分割合

50%

50%

2.ファンドの内容

地域別配分

組入比率の比較とベンチマーク収益率 (2012年4月末)

地域	組入比率の比較とベンチマーク収益率 (2012年4月末)	
	ファンド※1	ベンチマーク
北米地域	34.1%	44.4%
ユーロ地域	42.6%	41.0%
ユーロ除く欧州	6.4%	11.0%
その他	16.8%	3.5%

※1 組入比率は債券及び先物等の評価額合計に対する割合

ベンチマーク

Aコース:シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)

Bコース:シティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

シティグループ世界国債インデックスは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクが開発した、世界主要国の国債の総合投資利回りを各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

外部委託運用会社

運用会社

コルチェスター・グローバル・インベスターズ

ビムコ

運用スタイル

マクロ・バリュウ型

一般債重視型

目標配分割合

35%

65%

当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】 バランス20/40/80 TM

【特別勘定が投資する投資信託】

三菱UFJ MV20VA / 三菱UFJ MV40VA / 三菱UFJ MV80VA
(適格機関投資家限定)

【運用会社】

三菱UFJ投信株式会社
ラッセル・インベストメント株式会社

主要投資対象

日本を含む世界各国の株式及び公社債(これを主要投資対象とするマザーファンド受益証券を含みます。)を主要投資対象とする証券投資信託の受益権または受益証券(以下、「投資信託証券」といいます。)。主にラッセル 日本株式マザーファンド、ラッセル 外国株式マザーファンド、ラッセル 日本債券マザーファンド、ラッセル 外国債券マザーファンド受益証券を通じて投資が行われます。

運用方針

主に日本を含む世界各国の株式・公社債および円短期金融商品に分散投資し、中長期的に合成ベンチマークを上回る投資成果の獲得をめざします。

三菱UFJ MV20VA・三菱UFJ MV40VA・三菱UFJ MV80VA(適格機関投資家限定)の主要投資対象である投資信託証券の運用会社リスト

ラッセル 日本株式ファンド II (適格機関投資家限定) ラッセル 日本株式ファンド II (適格機関投資家限定)の運用は ファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。	ラッセル 外国株式ファンド II (適格機関投資家限定) ラッセル 外国株式ファンド II (適格機関投資家限定)の運用は ファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。
<p><ラッセル 日本株式マザーファンド> ラッセル 日本株式マザーファンドは、国内の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(TOPXX(配当込み))を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用スタイルと運用会社を採用することにより、ファンド全体でリスクをコントロールしながら、超過収益の獲得を目指します。グロース型、バリュ型、マーケット・オリエンテッド型などの運用スタイルだけでなく、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。</p>	<p><ラッセル 外国株式マザーファンド> ラッセル 外国株式マザーファンドは、日本を除く世界先進各国の市場において取引されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(MSCI KOKUSAI(配当込み))を上回ることを目標として運用を行います。グロース型、バリュ型、マーケット・オリエンテッド型などの異なる運用スタイルを持つ運用会社を最適な割合で組み合わせ、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。</p>
<p>グロース型 三井住友信託銀行(日本)(注)</p> <p>三井住友信託銀行のグロース株式運用は、短期的な企業業績の変化をきめ細かく調べ、企業が長期的な成長過程にあるかどうかを正確に見極めて投資プロセスが特徴です。アナリストチームが詳細に調査分析し、ポートフォリオ・マネージャーが企業のビジネス・モデルや業界環境、製品やサービスの競争力、参入障壁、競合企業の動向などの観点から成長企業を選別してポートフォリオを構築します。</p>	<p>グロース型 マッキンリー・キャピタル・マネジメント(米国)</p> <p>マッキンリーは、株価のモメンタム、企業収益の伸び、および収益面でのポジティブ・サブライズ(予想を上回る決算発表等)に注目の「グロース(成長)型運用」を行います。同社では、まず40,000以上の銘柄を対象に定量的な分析を行うことにより銘柄の絞り込みを行います。この結果に定性的な分析を加え、最終的には45-60銘柄程度から成るポートフォリオを構築します。</p>
<p>バリュ型 ゼブラ・キャピタル・マネジメント(米国)</p> <p>ゼブラは、流動性プレミアム(一般的に取引量が少ない銘柄はその割安に位置される傾向にあります。)の大きい銘柄が長期的に高いリターンをもたらすという考えに基づき、株式相場での流動性プレミアムを的確に捉える独自の定量分析を行います。構築されるポートフォリオは、低PBR(株価純資産倍率)や中小型株寄り等の特性を持ちます。</p>	<p>グロース型 マーシコ・キャピタル・マネジメント(米国)</p> <p>マーシコは、トップダウン・アプローチとボトムアップ・アプローチを組み合わせた運用を行います。今後株価形成に影響を与えると考えられる市場のテーマおよびマクロ経済見通しをベースに、個別企業について面談を含む詳細な調査を行い、銘柄の絞り込みを行います。テーマやマクロ経済動向の観点を銘柄選択プロセスに織り込むことにより、多様な投資アイデアが生まれ、成長度の高い銘柄の発掘に繋がっています。</p>
<p>バリュ型 アライアンス・パースティン(日本、香港)</p> <p>アライアンスのバリュ型株式運用は、綿密かつ質の高い企業調査とクオンツ・モデルを併用し、現在の株価と本質的な企業価値の差を捉えることにより超過収益の獲得を目指すというものです。クオンツ・モデルを用いた業種内およびグローバル・セクター間の相対バリュエーション(投資価値)比較により銘柄を選別し、更にアナリストが詳細な調査に基づき長期的な収益およびパフォーマンスを予想、割安に位置されている銘柄を見出します。</p>	<p>バリュ型 ハリス・アソシエイツ(米国)</p> <p>ハリスは、定性的および定量的分析に基づいて割安な銘柄を発掘し、それらに長期的な観点から投資を行います。具体的には、今後収益を生み出すことが期待でき、かつ株主を意識した経営を行っている割安な銘柄を投資対象とします。ベンチマークをあまり意識しない運用を行う結果、同社の構築するポートフォリオの個別およびセクター別の配分は、ベンチマークから大きく乖離することもあります。1セクターへのアクティブベット幅は厳格にコントロールされます。</p>
<p>バリュ型 ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ(米国)</p> <p>ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズは、委託会社が必要と判断した場合にファンドの一部についての運用を行います。当該部分においては低PBR(株価純資産倍率)銘柄を中心としたポートフォリオ(ティップ・バリュ)を構築することにより、ファンドの低PBR特性を補強します。</p>	<p>マーケット・オリエンテッド型 エムエフエス・インスティテュート・オブ・アドバイザーズ(米国)</p> <p>MFSはファンダメンタルズ分析に重きを置いた銘柄選択を行います。銘柄選択プロセスは、各国に配されたアナリストが各国の事情を加味した企業分析を行った後、当該アナリストから成るグローバル・セクター・チームにおいて国・地域を越えた同業他社との相対比較を行うことにより推奨銘柄を選定、これを基にポートフォリオ・マネージャーが相対的に魅力度の高い銘柄を選択するといったものです。ポートフォリオは、緩やかなグロース傾向を持ち、企業規模は市場平均よりやや小型寄りとなります。</p>
<p>マーケット・オリエンテッド型 ファンネックス・アセット・マネジメント(日本)</p> <p>ファンネックスは、日本株式に特化したブティック型の運用会社で、経験豊富で優秀なポートフォリオ・マネージャーと優れたアナリストからなるチームが運用を行います。運用プロセスは、市場の短期トレンドや将来中長期的に市場をけん引する投資テーマを分析し、詳細な企業リサーチを基に投資銘柄を選定します。</p>	<p>マーケット・オリエンテッド型 アローストリート・キャピタル(米国)</p> <p>アローストリートはグローバル株式運用における豊富な経験を生かし、多様なクオンツ型アプローチにより世界の株式市場に存在する魅力度の高い銘柄を探し出します。同社の主な超過収益の源泉は個別銘柄選択ですが、国やセクターの持つ影響も重視しており、国およびセクターで分けたいバスケツ毎に投資家行動などに個別的な価格の歪みを捉えています。こうした「マックス・アプローチ」と呼ばれる手法は同社の調査・運用プロセスの特徴となっており、グローバル株式運用会社としての強みもなっています。</p>
<p>ラッセル 日本債券ファンド III (適格機関投資家限定) ラッセル 日本債券ファンド III (適格機関投資家限定)の運用は ファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。</p>	<p>ラッセル 外国債券ファンド III (適格機関投資家限定) ラッセル 外国債券ファンド III (適格機関投資家限定)の運用は ファミリーファンド方式で行い、下記のマザーファンドを主要投資対象とします。</p>
<p><ラッセル 日本債券マザーファンド> ラッセル 日本債券マザーファンドは、日本の市場において取引されている公社債を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(NIOMJRA-BPI総合指数)を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用会社を採用することにより、金利予測、満期構成、債券種別選択、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。</p>	<p><ラッセル 外国債券マザーファンド> ラッセル 外国債券マザーファンドは、日本を除く世界先進各国の市場において取引されている公社債を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(シテグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース))を上回ることを目標として運用を行います。当ファンドの大部分は国債や高い格付けの債券に投資されます。複数の運用会社を採用することにより、金利予測、満期構成、債券種別選択、個別配分、違算配分、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。</p>
<p>広範分散型 りそな銀行(日本)</p> <p>りそな銀行はデュレーション(金利感応度)戦略、イールドカーブ(利回り曲線)戦略、債券種別選択、個別銘柄選択といった様々な分野で優れたスキルを有しています。金利戦略においては、国内のみならず、海外にも幅広い視野と分析能力を有し、マクロ経済から需給まで精緻な調査活動を行っています。クレジット戦略においても、トップダウン的な観点からの債券種別選択と徹底した企業の信用調査による個別銘柄選択とをバランスよく行います。</p>	<p>ベテランのベンチマークはそれぞれ下記の通りです。 ・Bコース(為替ヘッジなし):シテグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース) ・Bコース(為替ヘッジあり):シテグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース) Aコースは原則として為替ヘッジ(運用会社:ラッセル・インプリメンテーション・サービシーズ)を行い、為替変動リスクの低減を図ります。Bコースは原則として為替ヘッジを行いません。</p>
<p>広範分散型 DIAMアセットマネジメント(日本)</p> <p>DIAMは金利、クレジット/セクターの両戦略において、安定した超過収益の獲得を目指します。金利戦略部分では、投資家行動や需給分析に強みがあり、その分析能力を基に極めて短期的なポジションを機動的に数多く取ることで、超過収益の積み上げを図ります。クレジット/セクター戦略部分では、クレジットアナリストが定性、定量両面から精緻な信用分析を行い、ポートフォリオ・マネージャーが個別銘柄選択を行います。また、投資ユニバースの拡充にも積極的です。</p>	<p>マクロ・バリュ型 コルチェスター・グローバル・インベスターズ(英国)</p> <p>コルチェスターの運用スタイルは、各国の経済情勢や財政の健全性などのマクロ分析を通じて、相対的に高いリターンが見込める、割安感の強い国の債券および通貨を発掘するというものです。割安であるか否かの判断は、実質金利や購買力平価などを予測する同社独自の定量モデルを用いて行われ、この結果に定性的判断を加えることにより個別および通貨別の配分が決定されます。</p>
	<p>一般債権型 ビムコ(米国)</p> <p>ビムコの外国債券運用の特徴は、多様な収益源泉に幅広く分散投資を行うことです。国債以外の債券(一般債)への投資を得意としており、モーゲージ証券の運用にはとりわけ優れています。この一方で通貨変動からはあまり大きな影響を受けにくいような運用を行います。 (当資料には2010年11月10日現在採用の主な運用会社名が記載されており、各ファンドの運用会社構成は、ラッセル・インベストメント・グループが行う運用会社調査に基づいた判断により変更される場合があります。)</p>

(注)住友信託銀行は、2012年4月1日付で中央三井信託銀行および中央三井アセット信託銀行と合併し、三井住友信託銀行に商号変更しました。

当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。

組入投資信託の運用レポート

【特別勘定名】
マネー MA

【特別勘定が投資する投資信託】
三菱 MRF(マネー・リザーブ・ファンド)

【運用会社】
三菱UFJ投信株式会社

主要投資対象

国内外の公社債、コマーシャル・ペーパーを主要投資対象とします。

運用方針

主に信用度が高く残存期間の短い日本国内外の公社債、CP等の短期金融商品に投資することによって、安定した収益の確保を目指します。

ファンド概況

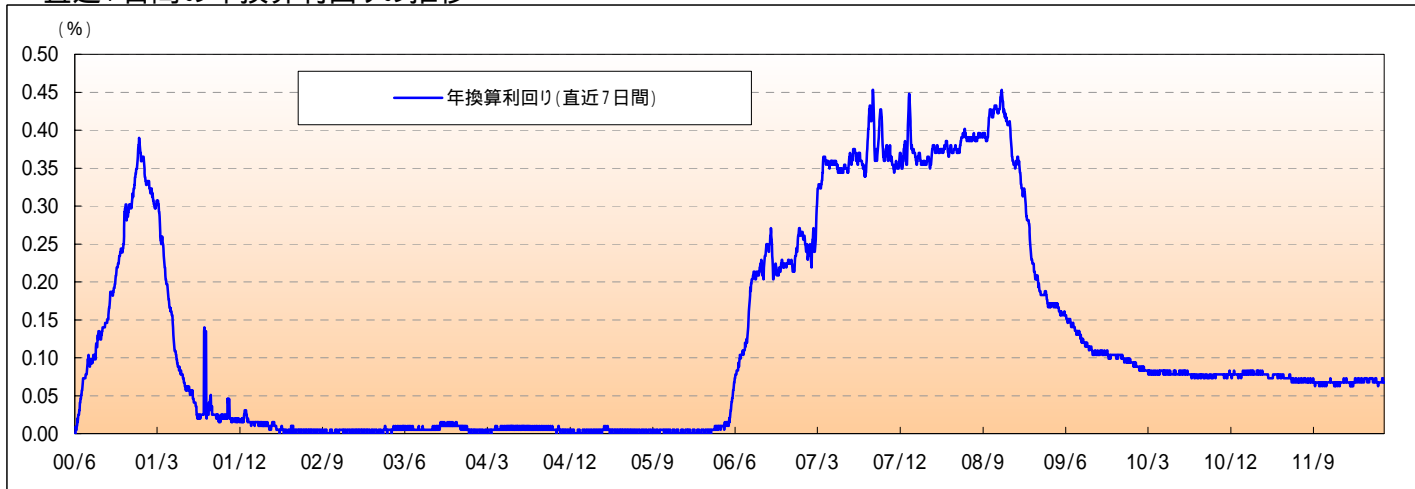
	2012年4月末	2012年3月末
基準価額	10,000円	10,000円
純資産総額(百万円)	36,186	35,651
組入銘柄数	14銘柄	13銘柄
実質債券組入比率	95.33%	91.15%
内 現物	95.33%	91.15%
内 先物	0.00%	0.00%
短期金融資産	4.67%	8.85%
平均残存日数	36.13日	32.22日

ファンドの特色

信用度が高く、残存期間の短い内外の公社債およびコマーシャル・ペーパーを中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行います。

・基準価額は、信託報酬(信託元本の額に対して年率1.0%以内)控除後のものです。
・比率は純資産総額に対する割合です。
・決算日の基準価額が1口当たり1円を下回っている場合には、追加設定は行いません。

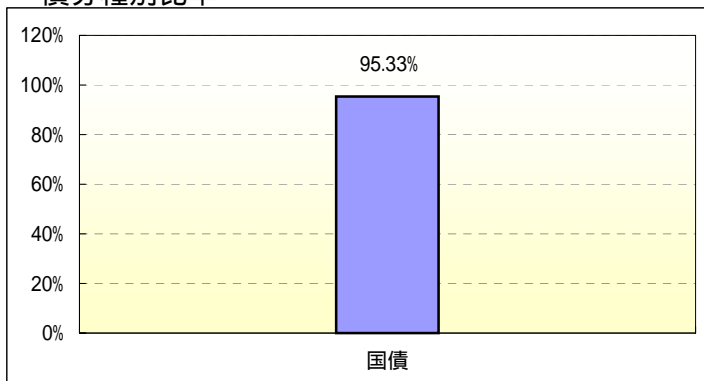
直近7日間の年換算利回りの推移



組入上位10銘柄

	銘柄	比率
1	第264回国庫短期証券	23.49%
2	第270回国庫短期証券	17.96%
3	第260回国庫短期証券	5.53%
4	第262回国庫短期証券	5.53%
5	第275回国庫短期証券	5.53%
6	第255回国庫短期証券	4.15%
7	第257回国庫短期証券	4.15%
8	第261回国庫短期証券	4.14%
9	第265回国庫短期証券	4.14%
10	第268回国庫短期証券	4.14%

債券種別比率



・比率は純資産総額に対する割合です。(一部買現先を含みます。)

・比率は純資産総額に対する割合です。(一部買現先を含みます。)

当資料は、ハートフォード生命の、変額個人年金保険の特別勘定(ファンド)グループの過去の運用状況等を開示するもので、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、特別勘定が投資する投資信託のレポートは、投資信託の運用等に関する会社からの運用報告を、ハートフォード生命より提供するものであり、ハートフォード生命はその正確性、完全性等を一切保証しません。

・特別勘定での運用期間中は、保険関係費用、運用関係費用の諸費用がかかります。また、解約時には解約控除が適用されることがあります。

・各特別勘定は投資信託を主な投資対象とするため、価格変動リスク、金利変動リスク、為替リスク、信用リスク等の投資リスクがあります。

したがって、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標にかかる変動により損失が生じるおそれがあります。